

年金一元化って？

実現可能部分から

毎日新聞インタビュー、2004年5月20日

一橋大学経済研究所の高山憲之教授の提案は、所得に比例した年金に改め、当面、制度ごとに保険料率などが違う厚生、共済、国民年金の区別は残す。ただ、スウェーデンの「みなし掛金建て制度」を取り入れ、払った保険料と年金額が対応するシステムにする。現在の日本の所得比例部分は保険料率と年金額が制度ごとに違い、不公平だからだ。

また最低保証年金は国庫でまかなう一方、経済的に恵まれている年金受給者に対し、カナダのように基礎年金の国庫負担相当分を国に税金として払い戻してもらおう制度などを導入することも提案している。

各年金の区別を残すのは、納税者番号制度を導入するにしても自営業者の所得捕捉には困難が残ると考えるためだ。国民年金の保険料について今回の改正案では4段階免除制の提案がある。この刻みをさらに細かくしたり、定額保険料より高い保険料を複数設定したりすることで所得比例の考え方を取りいれる方が現実的という。高山教授は「最終的には全体の一元化が望ましいが、実現できるシステムから始めるべきだ」と話す。

(取材：夕刊編集部 本橋 由紀記者)